

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2794600045		
法人名	社会福祉法人 寿光会		
事業所名	グループホーム太寿		
所在地	大阪府柏原市太平寺1丁目4番30号		
自己評価作成日	平成 30年 11月 3日	評価結果市町村受理日	平成 31年 1月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ligyosyoCd=2794600045-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ligyosyoCd=2794600045-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 12月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さん、家族さんの希望、想いなど傾聴して、出来る限りスタッフ一丸となり希望に沿えるように努力しています。個人個人の生活を尊重して、主体的にその人らしく笑顔で心穏かに暮らして行ける場の創造を目指して、職員一同日々頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年地域に貢献する社会福祉法人が母体で、「住み慣れた地域で心豊かに暮らせるために」と開設した地域密着型高齢者施設の一階部分にあります。ホーム玄関前の「地域交流スペース」は、地域住民の活用もあり利用者との交流もできています。職員は「笑顔を大切に」を目標に掲げ職員間で共有しています。職員は笑顔で過ごすためには「自分を大切にすること」を心掛け、利用者にも明るく笑顔で接し、利用者一人ひとりが、穏やかに日々の暮らしを送れるように寄り添っています。利用者が日中過ごすことの多い食堂兼フロアは思い思いに過ごせる居場所もあり、居心地のいい場所になっています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p><b>○理念の共有と実践</b>            地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>常に職員が目にする所に社会福祉法人の理念、GHの理念を貼り朝の申し送り時には読み上げて意識しながら介護している</p>	<p>法人の経営理念「周りの人の幸せを願うところに自らの幸せもある」をもとに「家庭的な雰囲気の中でやさしさと思いやりの心で支援しましょう」をホームの理念として、利用者や家族が見やすいところに明示しています。理念は職員間で共有し、「幸せを分かち合い、家族のように過ごす」を心がけて実践につなげています。また、管理者は全職員で考えた今月の支援目標「笑顔」を事務所内に掲示し、毎朝職員間で唱和しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p><b>○事業所と地域とのつきあい</b>                      利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>GHの行事などの時は近隣の方に声かけ参加してもらっている、地域の祭りのお神輿の休憩所にもなって子供達と写真を撮ったりして楽しんでいます。近くのスーパーにスタッフと一緒にいき、買い物をする機会もある。</p>	<p>事業所と地域との関係性は良好で、地域密着型高齢者施設と合同で行う催しには地域住民も参加しています。また、夏祭りのだんじりの休憩所として利用される際には利用者が接待するなど、利用者と地域の方の交流の場となっています。職員は生活の中で利用者が地域とつながりながらの暮らしを続けられるように支援を行っています。管理者は、今後は地域交流スペースを活用し「グループホームと認知症の方」の紹介や、利用者と一緒に出かけ近隣住民の方と触れ合う機会を増やし、認知症の理解を深めていく方向も検討しています。</p>	
3		<p><b>○事業所の力を活かした地域貢献</b>                      事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>防災訓練時には近隣の人には声かけして見守って頂いています。GHとしては天気の良い日にはスーパーに行ったり、町を散歩する機会を作っている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>管理者、計画作成者、リーダーで担当して会議に出てGHの出来事、イベント、サービスなど報告しています、出席されている人の意見など聞いて今後の運営に活かしています</p>	<p>運営推進会議の開催規程を定めています。会議は併設の地域密着型特別養護老人ホームと合同で2ヶ月に1回、年6回定期的に開催しています。地域の代表として地区福祉委員、市社会福祉協議会担当者、地域包括支援センター職員、市高齢介護課職員、家族代表が参加しています。ホームから利用者の状況、行事等の取り組み状況と今後の予定、事故やヒヤリハットの発生状況等を報告し、参加者から評価や意見を聞いています。参加者から、地震発生時の対応策、熱中症・食中毒対応策等についての質問があり、ホームから取り組みの状況を詳しく説明しています。会議録を詳細に作成して職員も確認し、意見は運営やサービスの向上に活かしています。管理者は、運営推進会議は地域の関係者との情報交換ができる貴重な機会と、開催の意義を感じています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>相談事あれば運営推進会議に市役所、包括職員と相談している、市内の地域密着型施設連絡会に参加して市役所職員や他GHのスタッフとの協力関係を築いている。</p>	<p>市職員や地域包括支援センター職員とは運営推進会議の機会に、相談や情報交換をして関係を築くよう努めています。事故報告は、市に書面でその都度しています。職員の代表は地域密着型施設連絡会に参加し、情報交換や連携に努めています。</p>	<p>管理者は、市内の地域密着型施設の連絡会等に参加し、市役所担当者や他のグループホームとの情報交換、交流を更に深め、協力関係を築いていきたい意向です。今後の取り組みの成果を期待します。</p>
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用者さんは自由にロビーと居室を歩き来している、9人の皆さんが何処で過ごされているかは常に確認している。裏庭に昼間自由に入出入りされている方は家族と相談して夜間は施錠させてもらっています。GHの玄関も夜間時も基本は施錠していません。</p>	<p>管理者は身体拘束をしないケアを十分に理解し、職員の指導をしています。マニュアルを整備しています。新任職員は法人が定期的開催する研修会で身体拘束、虐待防止について学んでいます。また、職員会議では全職員に研修もしています。日中の時間帯は玄関を施錠せず、拘束しない支援に取り組んでいます。外出しようとしている利用者には、一緒に付き添うなど、安全にも配慮して自由な暮らしを支援しています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての資料はスタッフが目につく所にいつも置いています。日常の介護の話の中でも話題に出しスタッフの意見を聞き話合う機会を作っています</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所者さんの中に成年後見制度を利用されてる方がいて弁護士さんが時々訪問されます、都度説明したりして話合っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には管理者、計画作成者が自宅に伺い家族、本人とゆっくりと話しています、不安や疑問には都度安心して頂くように話させて貰っています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者さんとは常に話す機会を作り、スタッフに漏らした言葉も連携して解決するようにしています、又、面会に来られた家族さんとも可能な限り話しさせて頂き気持ちを汲み取るようにしています。今年は家族参加の行事の後に家族の顔合わせもした	職員は利用者との会話を大切に、日常の何気ない言葉や表情の中から気持ちを汲み取っています。今年度から納涼祭やクリスマス会などのイベントの後に家族会を開催し、意見や要望を聞き取る機会も設けています。昨年の目標であった利用者の生活情報の提供や家族アンケートは、管理者の交代等で実施できていない状況です。職員は家族の来訪時や家族会で意見や要望を聞き取り、運営に反映していく方向です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>                      代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝の申し送り時には日常の困った事など聞き出勤のスタッフの意見を聞くようにしています、月 1 回のミーティングの機会でも提案して話しています</p>	<p>管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設けています。職員会議では意見を出しやすい雰囲気を作っています。また、毎朝のミーティングでも意見を出し合っています。職員同士で話し合い、毎月のケア目標を決めています。職員の意見で、日中多かった甘い飲み物の回数を変更できた事例があります。管理者は一人ひとりの職員の意見や勤務希望も聞き入れ、働きやすい職場になるように心がけています。「職員間の風通しが良くなり仕事がしやすくなった」と話す職員がいます。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>スタッフとは会話をする機会を作り働いている姿などを観察して片寄りの無い仕事に振り分けています、シフトを作る時もスタッフの希望を先に聞いて優遇していますスタッフの意見を尊重して業務を見守っています</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時にオリエンテーションをして法人の理念や利用者さんとの関わりのマナーなど勉強してもらっています、法人内での研修に参加してもらっています、ミーティングに出てきた問題に研修資料を作り目を通していきます</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人は管理者、リーダー、職員が法人内のスタッフと研修する機会を作っている。地域密着型施設の会議に参加して情報を得るようにしています		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には自宅訪問して不安など聞きだし、納得して入所してもらっている。入所後もスタッフ全員が一丸となり気配りして対応しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問時、緊張させないよう話しやすい環境を作りをして時間をかけ不安や要望をしっかりと聞き入れ安心安全に生活出来るよう情報を共有する。入所後も相談・連絡・報告を欠かさない		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での生活情報を開示。職員全員で情報共有。話し合い。随時見直しと更新。その人に合った生活安心できる生活サービスを提供。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんの性格を把握し職員同士で情報共有信頼関係を築き平等・公平にする		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の意向に耳を傾け報告・相談している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方と、途切れないように定期的に通院や外出に出たり、面会や電話でのコミュニケーションが取れるように配慮しています。また以前、住んでいた自宅近くまでドライブに出かけています。	利用者は近隣の方が多く、入居後も散歩や外出など地域の人と交流の機会を作り、地域との繋がりが途切れないように支援を行っています。同じ建物の特養に入居する母親とお互いの部屋を行き来する利用者がいます。また、法人の運動会では特養に入居している近所の方との再会を楽しみにしている利用者がいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ趣味を持つ者同士と一緒に作業をしたり、歌好きの者同士と一緒に童謡などを歌ったり、また輪になり全員でゲームや歌レクを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、入院先や次の施設まで面会に行き様子を伺っています。また相談もさせてもらっています。		
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での会話で心の変化や身体的な変化の察知が出来る様に努力しています。また計画書作成時にも、情報収集しながら、その都度、職員と共有し支援に努めています。	職員は利用者がその人らしく生活ができるような支援に努めています。日々のケアの中で利用者の思いをその都度聴き取り、支援を行っています。思いや意向は、一人ひとり違うことを理解し、その人なりの日常の過ごし方を把握し、その時々状況に応じて対応をしています。管理者は、個人ケアを目標に掲げ、利用者からの意見や要望は職員全員で共有して支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅で生活していた際にしようしていた家具や品物を持って来ていただくように勧めています。また、趣味にしていた物も持参していただき、継続していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の希望を尊重し、居室で過ごしたい方、フロアで過ごしたい方など、全てにおいて、強制はせず自由に1日1日を過ごしていただいています。また状態、ご様子を把握できるように、また安全に過ごして頂く様に、常に見守っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、モニタリングを行い、計画作成が確認清書をします。家族さんにも面会時や電話連絡をし、意見や要望を聞いています。完成した介護計画書をご本人さんと家族さんに説明をし、インを頂いています。スタッフにも開示をし意見や要望を聞いています。	計画作成担当者は、プラン作成の際は利用者に説明し思いを聴き取っています。毎月のモニタリングで聴き取った利用者の言葉は記録に残しています。言葉にできない方は本人の表情の変化を汲み取り、計画を作成しています。計画作成担当者は利用者本位の計画を心がけ、家族にも要望や意見を聞き、職員とも共有しています。計画作成担当者は記録に残すことの重要性を理解し、計画書はわかりやすい様式になっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施・結果、気づきなど素早く個別記録に記入するよう周知し見直しがあれば話し合いして家族などにも意見を求め一番良い方法を考えて計画の見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族様に情報等や本人の要望等聞き個々のケアに努め柔軟な姿勢で取り組んでいる</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>出来るだけ地域にこちらから溶け込んでいけるよう外出など地域の行事など積極的に参加してもらうようにしています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>日常の本人の状態を把握記録に残して変化があれば看護師、家族と相談しかかりつけ医師に連絡。家族様と協力しながら対応している。</p>	<p>定期的に受診が必要な利用者は、入居前からのかかりつけ医に受診しています。受診には家族が同行しています。受診の際の情報は共有しています。家族が同行できない場合は職員が同行し、かかりつけ医まで送迎を行う利用者もいます。歯科医師の往診日があり、希望者は診療が受けられます。毎日の健康状態は看護師がチェックし、急変時にはホームの嘱託医に連絡し指示を受けています。緊急時や夜間対応にはオンコール体制で看護師と連携対応ができています。「緊急医療情報シート」を作成し、職員間で共有しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p><b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々体調に変化があれば直ぐに看護師に報告・相談。指示のもと家族に連絡し報告。受診が必要時は協力してもらおう。記録は必ず残すように徹底している。</p>		
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院した時は、施設生活情報を病院へ提出。家族とこまめに連絡を取り状態・経過など情報収集する。また、ケアマネージャーと病院へ行き。直接本人の様子や病院関係者と経過など情報交換しています。</p>		
33	12	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所説明の時に事業所で出来る事は説明しています。 重度化した利用者様に対しては、家族を含め医師、看護師、ケアマネ、介護職員らと相談しながらケアを実施している。</p>	<p>利用者が重度化した際や終末期の対応については入居時に家族に説明していますが、書面は作成していません。利用者や家族から希望があれば法人内の特養への入所支援を行っています。管理者は重度化や終末期について事業所の基本的な方針を定め、家族へ説明して同意を得るとともに、職員間で共有して支援を行っていく方向です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的にしてないが事故発生や急変時の(緊急連絡簿)マニュアルは定位置に設置している。医療に関する事は看護師の指示のもと実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で災害避難訓練しており。地域の方にも協力を依頼。消防署の人にも協力していただいている。又マニュアル作成しグループホームでも実施している。 夜間帯はマニュアルを設置している。	災害対策のマニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っています。内、年1回は消防署の協力を得て、地域住民も参加し、利用者と一緒に避難訓練を行っています。管理者は、今後は年1回のホームの避難訓練には家族へも声をかけ、合同で訓練を行う方向を検討しています。ホームの立地から豪雨水害も想定し、数日分の非常食を準備しています。また、介護用品や薬品も持ち出しができるように一人ひとりの避難袋を準備しています。施設は地域の福祉避難所になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族より情報収集した上で個人の人格を尊重している。プライバシーにも配慮したケアや声かけをしている。職員に対しても外部に漏らさないよう守秘義務の徹底を行っている	職員は入社時に法人の研修を受け、利用者への関わりのマナーなどを学んでいます。研修で学んだ内容は職員全体ミーティングで共有しています。職員はホームの理念「家庭的な雰囲気の中で優しさと思いやりの心で支援しましょう」をもとに、日頃からプライバシーに配慮した声かけを実践しています。トイレは自室にあり、介助が必要な利用者のプライバシーも保護されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別ケアを目指して取り組んでおり本人さんの要望など聞いて出来る事を出来る範囲で支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースを把握した上で(何が苦手で何が好きなど含め)尊重し希望に沿った支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴用意を職員と一緒にしたり 外出前には前もって声をかけており身だしなみ着替えをしてもらったりしています。 本人さんが選んで着た服は尊重しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じて貰う為に旬のものを提供しています。 家族さんより好みや嫌いなものを聞いて出来るだけ完食出来るよう見た目も重視しています。 調理や下ごしらえなど職員と一緒にし人によっては盛り付けのみするなど。一人一人の能力に応じて職員と共にを行っています。	利用者が楽しみにしている食事は3食とも利用者と職員と一緒に作っています。利用者は下ごしらえや盛り付けなど、自分のできることに参加しています。職員は利用者に旬のものを食べてもらえるように、交代で季節に合ったメニューを考案しています。毎日のメニューは家族や利用者にも見られるように、入口玄関脇のボードに掲示しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的バランスの取れた食事メニューを考え食べる量など体重や血液検査結果など家族に報告・相談し要望を聞いた上で職員間で話し合いをしている。水分量などは補給表にその都度書いており水分が足りているか職員間で把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い自己にてできない人には介助をする。個人に合ったケアを実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必ず食前・食後とトイレ声かけしている。また、その人のトイレ習慣を把握して対応している。羞恥心を大切にしており大きな声で声かけはしないように職員間で徹底している。	トイレはそれぞれの自室にあり、基本はトイレでの排泄です。排泄チェック表を作成して一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導を行っています。見守りが必要な方にはトイレの前で待機し、介助が必要な方には最低限度の手助けで、できるだけ本人の自立を促しています。夜間は自室トイレの入口にセンサー付きのマットを配備している利用者もあり、職員が適時に支援しやすくするよう工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニュー等で食物繊維など取り入れ適度な運動(散歩やレク)をして水分等も把握し予防に取り組んでいる。個々によってはKOT-3で看護師指示のもと下剤服用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴は週に2～3回バイタルに異常な いか確認し本人様の了解のもと支援 している。バイタルに異常があれば看護 師に相談しその都度臨機応変してい る。入浴を拒む方には職員を替えたり 時間を変更したり個々にそった支援を している。</p>	<p>入浴は基本個浴で行っています。浴槽 は横が開閉し、中の椅子も上下できる 高齢者が入浴し易いお風呂が整備さ れています。職員は利用者が週2日は 入浴することを目標に支援を行って います。希望があれば希望日に入浴で きる体制を整えています。体調やその日 の感情に配慮して支援を行っていま す。入浴を好まない方には日時を変更 することもあります。入浴ができない日 には手、足浴や部分浴の支援を行っ ています。利用者が季節を感じて入浴を 楽しむことができるように、柚子湯や菖 蒲湯も用意しています。</p>	
46		<p><b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々の状 況に応じて、休息したり、安心して気持 ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人一人の身体状況や生活習慣を観 察しその方の意思を尊重して休息され たい方はして頂く。 就寝時間も個々で支援している。</p>		
47		<p><b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や 副作用、用法や用量について理解して おり、服薬の支援と症状の変化の確認 に努めている</p>	<p>入所者さんの服用している薬リストの ファイルを作り職員全員が自由に見れ る場所においている。臨時で出たお薬 は服薬表に書いてマーカーで線を引い ている。また、連絡ノートにも記入し周 知徹底している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族さんに情報聞いたうえで個々の楽しみなことや得意なことを引き出し好きな事は継続出来る様支援しています。生活面でも気分転換出来る機会を提供し家族にも協力して支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるよう屋内だけでなく出来るだけ少しの時間でも屋外に出るよう支援しています。屋上散歩から屋外おやつレクなど。また、個々の希望に合わせて買い物など。個人から団体まで外出支援しています。	利用者それぞれの希望に合わせて外出の支援をしています。2日に1回は散歩や買物に出かけ、地域の方から声かけをされることもあります。また、屋上の庭でおやつ時間を過ごしたり、日光浴などで季節を肌で感じられるような支援を心がけています。職員は、今後も利用者と一緒に外出する機会を増やし、近隣住民と交流がしやすい場所に出かけ、利用者が日々を楽しく過ごせるような支援に取り組む方向です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人家族さんより小口現金を預かり日用品や嗜好品の購入をしている。買い物に行った際は自分で欲しいものを選んでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b>                      家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人さんの希望に沿って自宅に電話し本人あてに来た年賀状等は手渡ししている。家族さん宛て暑中お見舞いなど本人の書いた字で出している</p>		
52	19	<p><b>○居心地のよい共有空間づくり</b>                      共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>掃除を心がけ食後は必ず床の掃除をしている。                      季節を感じて頂けるよう共有フロアに花や行事を取り入れて工夫しています</p>	<p>管理者・職員は、利用者が居心地良く、安心して過ごせるよう常に心がけています。オープンキッチンのある広い食堂フロアは、明るく落ち着いた雰囲気です。大きなクリスマスツリーをはじめ綺麗なクリスマスリースや花が随所に飾られ、楽しい季節が感じられます。テレビコーナーのソファや食事のテーブルは低めにしています。キッチンからは食事を準備する際の音や匂いなどが漂い、家庭的な生活感もあります。利用者は日中のほとんどの時間を食堂フロアで思い思いに過ごしています。フロアの随所に加湿器を置き、温湿度の管理にも配慮しています。共有空間は、全体的に清掃が行き届き、清潔感があります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有フロアに、皆さんが集えるような温かい雰囲気を作ることを心がけています。居室で過ごしたい方やフロアで過ごしたい方が、自由に行き来が出来るように心がけています。観葉植物を置き、季節の物を飾るように心がけています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>元々、住まれていた家具や飾り物を置き、生活空間を崩さないように配慮しています。テレビやラジオを置かれている方もいます。</p>	<p>居室の外に通じるガラス戸にはカーテンの代わりに障子戸があり、天井の灯も和風で落ち着いた雰囲気です。</p> <p>ベッド、エアコン、洗面台が設えられ、各居室にトイレもあります。職員は家族と相談し、利用者が居心地良く過ごせることを第一に心がけ、居室作りをしています。利用者は、それぞれ馴染みの整理ダンス、椅子、時計、テレビ、ラジオ、人形、ぬいぐるみなどを持ち込み、家族や思い出の写真、自作のクラフト作品等を飾り、居心地良く暮らせるようにしています。ベッドの位置もそれぞれに暮らしやすいよう変えています。加湿器で湿度管理もしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの場所がわからない方には紙を貼ったり、廊下には障害物を置かないように安全に配慮しています。</p>		